

対象年度		平成31年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート										
事務事業名		教育振興事業（小学校）						予算事業名		教育振興事業費				
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分						
				10	02	02	1101	経常経費	根拠法令					
総合計画体系		4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文						事業の区分	主要事業					
		4-1生きる力を育む教育環境づくり（学校教育）							重点事業					
		①教育内容の充実						担当課係等	学校教育課					
事業期間		継続（昭和29年度～平成32年度）							学務係					
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】						【事業開始のきっかけや他市の状況など】								
確かな学力の育成・豊かな心の育成・健康と体力の向上を目指し、児童生徒の「生きる力」を育み、将来の社会活動における一翼を担う人材の育成をする。														
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】						【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】								
・理科教科の充実のため理科支援員を配置 （国庫補助：補助率1/3） ＊3小学校ごとに実施しているものを通年実施に拡充 ・算数教科の習熟度向上を図るため夏季休業中に学びの広場を実施（県委託金） ・読書活動推進のための図書整備 ・コンピュータ教室用機器更新事業 H29 結城小学校 H30 城南小学校外7校 ・教科書採択に伴う指導書購入 H31 4年に1度の採択替え H32 10年に1度の学習指導要領改訂による採択替え						児童生徒及び教職員								
						【事業をとりまく環境の変化】 理数教科の学力低下が問題視され、世界で活躍できる人材育成と技術力の維持のため国において積極的な推進策が図られたことから本市としても対応が必要であり、理数教科については児童生徒の習熟度に差が出やすいことから、補習・アシスタント学習事業を実施する。								
【平成31年度 事業内容】				【平成32年度 事業内容】				【平成33年度 事業内容】						
小学校児童の学力向上及び体力向上に資するための経費				小学校児童の学力向上及び体力向上に資するための経費				小学校児童の学力向上及び体力向上に資するための経費						
■事業費														
				H29年度		H30年度								
財源内訳	国庫支出金			101		101								
	県支出金			521		526								
	地方債			0		0								
	その他			0		0								
	一般財源			20,156		38,804								
歳入計（千円）				20,778		39,431								
歳出内訳	節（番号＋名称）			金額（千円）		金額（千円）								
	08 報償費			1,469		1,613								
	11 需用費			4,722		6,507								
	12 役務費			32		33								
	14 使用料及び賃借料			7,253		24,704								
	18 備品購入費			7,302		6,574								
歳出計（千円）（A）				20,778		39,431								
伸び率（％）						89.77								
備考	総合計画112ページ 予算書161ページ													

平成29年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H29年度	H30年度	H31年度
活動 指標	学びの広場実施日数	日	目標	5.00	5.00	5.00
			実績	5.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	
	手段の妥当性	A 妥当である	
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	
進捗度	事業の進捗	A 順調である	
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
理科支援員、学びの広場を実施し一定の成果を得ている。 コンピュータ教室のパソコンについて、更新にあたり、普通教室での使用も視野にタブレットとなる機器を導入した。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
今後も補助金制度を積極的に活用し、授業の活性化・工夫を図れる環境を整備する。 コンピュータ教室の環境整備により、I C T教育について充実を図っていきたい。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☒ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 平成29、30年度に更新したコンピュータ教室を活用し学力向上を目指すとともに、特色ある教育の実践と教職員の指導力向上並びに教育環境の整備充実を図る。
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。